

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：32208

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00174

研究課題名（和文）フロンテヌブロー派における北方絵画の影響について

研究課題名（英文）On the influence of Netherland painting on Fontainebleau school

研究代表者

田中 久美子（Tanaka, Kumiko）

文星芸術大学・美術学部・教授（移行）

研究者番号：70222114

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：フロンテヌブロー派における北方絵画の影響について」の研究にあたって、以下の三つの観点から研究をおこなった。1）フロンテヌブロー派の半身肖像画の成立への北方絵画の関与、2）パリで活躍した北方画家たちの調査・研究、3）ジャン・クーザンのパリにおける初期の活動と北方絵画の関係である。

フロンテヌブロー派の生成には従来強調されるイタリア絵画はもちろんのこと、北方絵画も大きな影響を及ぼしている状況を具体的に浮き彫りにすることができた。最終年度には報告書『フロンテヌブロー派における北方絵画の影響について』を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フロンテヌブロー派は「イタリアとフランドルの美術の坩堝」と形容されるものの、イタリアの関与については多くの研究がなされているにもかかわらず、北方の果たした役割は具体性を欠き、不明な点が多い。本研究は、第一次フロンテヌブロー派における北方絵画の影響に焦点を当て、その受容の在り方や第一次フロンテヌブロー派の形成に果たした役割を具体的に検証するものである。また、北方絵画とイタリア絵画が融合され、フランス独自の芸術が生成されていった過程が多様な局面から浮かび上がってきた。

研究成果の概要（英文）：Regarding my research on the influence of Netherlandish painting on the Fontainebleau school, I put forth 3 viewpoints on the following: 1)the influence of Netherlandish art on the birth of portrait style of the School of Fontainebleau, 2)the study of Netherlandish painters and their works in Paris, 3)the relationship between the earlier activities of Jean Cousin and Netherlandish painters in Paris.

It became clear that not only Italian paintings but also Netherlandish paintings had an influence on the creation of the school of Fontainebleau. In my final year of research, I published a report on the influence of Netherlandish paintings on the Fontainebleau school.

研究分野：美術史

キーワード：フロンテヌブロー派 フランソワ一世 ジャン・クルーエ ノエル・ベルマール ジャン・クーザン

1. 研究開始当初の背景

フォンテーヌブロー派は「イタリアとフランドルの美術の坩堝」と形容されるものの、イタリアの関与については多くの研究がなされているにもかかわらず、北方の果たした役割は具体性を欠き、不明な点が多い。2001年にフランソワ一世の治世にパリで活躍した北方の画家たちに光をあてた研究書が上梓された(Guy-Michel Leproux, *La peinture à Paris sous le règne de François Ier*)。その後、2017年にルーヴル美術館でフランソワ一世の治世にフランスで活躍した北方画家についての展覧会が開催された(François Ier et l'art des Pays-Bas)。ようやく、この時期にフランスで活躍していた北方の画家たちに光が当てられた。彼らは、第一次フォンテーヌブロー派の形成に具体的にどのような役割を演じたのだろうか。新たな問いが生まれることになった。

2. 研究の目的

第一次フォンテーヌブロー派において、北方絵画/画家はどのように受容され、どのような役割を演じたのかを明らかにし、フランス独自の絵画の生成に果たした役割を明らかにすることが研究の目的である。

第一にフランスで活躍した北方画家たちに注目する。フランスはイタリアの芸術家たちを招聘しただけではなく、北方の芸術家をも広く受け入れていたにも関わらず、この点については等閑視されてきたからである。まず注目するのは、北方出身の画家でありながら、フランスの宮廷に仕え、フランス的肖像の典型ともいえる半身肖像画を完成したジャン・クルーエである。次に、フォンテーヌブローに変わって芸術活動の中心地となるパリでの北方の画家たちの活動とその芸術的成果を具体的に考察する。この時期のフランスの芸術的傾向の変遷を理解するためである。

北方の芸術家に注目したのちに、次に焦点を当てるのは、裸体女性像の表象に独自の様式を展開したフォンテーヌブロー派のもっとも重要なフランス人画家ジャン・クーザンである。クーザンの活動についてはいまだ明らかにされていない部分も多いが、北方の芸術家たちが多く活動していたパリで、その初期に活動していることに注目したい。ジャン・クーザンの芸術生成には、通常強調されるイタリア芸術のほかに、パリでの活動が関わっていたと思われる。この点を現地で調査し、北方の芸術家との関係を解明したい。

北方絵画とフォンテーヌブロー派の関係を多様な視点から考察することで、これまで具体的にされることのなかった「イタリアとフランドルの美術の坩堝」の実態を浮かび上がらせることが目的である。

3. 研究の方法

第一次フォンテーヌブロー派に対する北方絵画の影響をテーマとする本研究において、三つの観点から考察してゆく。

- 1) ジャン・クルーエ研究: フォンテーヌブロー派の重要な成果のひとつとされる半身肖像画の伝統を築いたジャン・クルーエは、フランスで活動するもっとも有名な北方の画家である。彼の半身肖像画はイタリアの造形性と北方の写実性という両極の芸術の真髄を吸収し、融合させたものと評価されている。半身肖像画の成立過程を明らかにし、フォンテーヌブロー派に及ぼした北方絵画の関与の在り方を解明したい。
- 2) フランスにおける北方画家たちの活躍: 16世紀後半にフランスの芸術活動の中心となる

パリで活躍した北方画家たちの調査、研究を行う。その中心となるのはノエル・ベルマールである。ベルマールの作品データ、文献資料を収集し、調査する。また、ベルマール芸術がパリに流行する状況を、ベルマール・グループと呼ばれる画家たちが制作した写本群を調査することで明らかにする。収集した写本図像資料はデータベースとしてまとめる。

- 3) ジャン・クーザンのパリ時代の研究：ジャン・クーザンの エヴァ・プリマ・パンドラは、フランス人による初めての裸体表現である。その生成にはイタリアの彫刻家ベンヴェヌート・チェッリーニの ファンテーヌブローのニンフ が関わっているが、実は、画家は活動の初期にパリで創作活動を展開しており、タピスリーやステンド・グラスの下絵制作など多彩な活動をしており、彼の手には帰される素描や版画も数多く存在する。
現地調査をもとにクーザンと北方の画家たちとの交流や関係を調査する。

4. 研究成果

「フォンテーヌブロー派における北方絵画の影響について」の研究にあたって、上記の三つの観点から、フランソワ一世の治下、フランスにおける北方絵画の受容とフォンテーヌブロー派の生成への北方絵画の影響について考察し、それぞれの成果を著作物、報告書に発表した。

- 1) ジャン・クルーエ研究については、フランスの宮廷画家となった北方出身の画家ジャン・クルーエの肖像画の中に北方の影響とフランスの肖像画の生成を読み解いた。とりわけ、クルーエの半身肖像画の分析の中心においたのは、フランソワ一世の肖像である。その成果を、2020年に執筆した「変容する肖像画 - ジャン・クルーエの肖像画を中心に」(『ネーデルラント美術の宇宙』北方近世美術叢書 V、責任編集、今井澄子、ありな書房)において発表した。
- 2) フランスにおける北方画家たちの活躍については、パリにおける状況を中心に報告した。フォンテーヌブローでイタリアからやってきた芸術家たちの主導の下で、いち早く新たなフランスの芸術が誕生していたその時に、パリで主導的な潮流は北方の芸術家たちであった。フランソワ一世の治下、パリで主流の役割を果たしていたのは北方出身の画家ノエル・ベルマールであった。パリでのベルマールの作品を考察すると同時に、徐々にパリにベルマールの北方的潮流が広まってゆく様子と、徐々にそれが変容してゆく過程をベルマール・グループの写本群を調査することで理解することができた。この成果は、2024年に刊行した研究成果報告書『フォンテーヌブロー派における北方絵画の影響について』に発表した。報告書では、ベルマール・グループの写本挿絵をデータとして記載した。
- 3) ジャン・クーザンのパリ時代の研究については、クーザンがかかわったステンド・グラスが残る4つの教会(サン＝ジェルマン＝ロセロワ聖堂、サン＝テチエンヌ＝デュ＝モン聖堂、サン＝メリ聖堂、サン＝ジェルヴェ＝サン＝プロテ聖堂)および写本画を通して調査した。北方の芸術家たちと協働している実態が明らかになると同時に、パリの芸術的潮流が北方的な特質から脱し、変質してゆく様子を明確にすることができた。この点についての成果は、「ジャン・クーザンとステンド・グラス」(『文星紀要』34号、2023、pp. 61 - 81)および研究成果報告書『フォンテーヌブロー派における北方絵画の影響について』(2024)に発表した。とはいえ、ジャン・クーザンについては、その活動についてまだ多くの謎に包まれており、今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中久美子	4. 巻 34号
2. 論文標題 ジャン・クーザンとステンド・グラス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文星紀要	6. 最初と最後の頁 61 - 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中久美子	4. 巻 33
2. 論文標題 フランソワ一世の治下におけるフランドル絵画の影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文星紀要	6. 最初と最後の頁 53 - 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中久美子	4. 巻 32
2. 論文標題 変容する肖像画 ジャン・クルーエからフランソワ・クルーエへ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文星紀要	6. 最初と最後の頁 35 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中久美子	4. 巻 31
2. 論文標題 「エッチングのルネサンス展」メトロポリタン美術館	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文星紀要	6. 最初と最後の頁 103 - 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 キリスト教文化事典編集委員会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 790
3. 書名 キリスト教文化事典	

1. 著者名 田中久美子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ありな書房	5. 総ページ数 254
3. 書名 ネーデルラント美術の宇宙 ネーデルラントから地中海世界、パリ、そして神聖ローマ帝国へ	

1. 著者名 クロード・パラダン	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ありな書房	5. 総ページ数 222
3. 書名 英雄的ドゥヴィーズ集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------